

DRI 教育の全学展開

小坂 有資（大学教育基盤センター特命講師）
鶴町 徳昭（大学教育基盤センター創造教育推進部門長）
西本 佳代（大学教育基盤センター准教授）

1. はじめに

2018年に新たな価値創造のための学士課程教育としてスタートしたDRI教育を、大学教育基盤センターでは、3年かけて充実させてきた。その展開の軌跡を、本稿で報告する。DRIとは、次の3つの言葉の頭文字¹⁾だ。

Design thinking : イノベーションを創出する「デザイン思考」

Risk management : レジリエンスやセキュリティ等に資する「リスクマネジメント」

Informatics : デジタル社会を生きるための「インフォマティクス」

大学教育基盤センターでは、以下の三点の取り組みを通して、学士課程教育におけるDRI教育の充実を図っている²⁾。

- (1) DRI能力を育成するための基盤的教育
- (2) DRIイノベーター養成プログラム
- (3) DRI能力を育成するためのFDプログラム

(1)については、全学共通科目において新たにDRI能力育成科目を開設した。また、従来の主題B「課題発見・課題解決型授業」を更に実質化することにより、全学的なDRI能力の育成に努めている。(2)については、学習意欲の高い学生をターゲットとして「DRIイノベーター養成プログラム」を開設し、多様性理解力やチームで考える力を育成している。(1)と(2)の授業を行うためには、全学の教職員からDRI教育に対する理解と協力を得なければならぬ。そこで(3)として、DRI教育やアクティブラーニングに関するFDを開催し、教員・職員・学生が一丸となってDRI能力の育成に取り組む環境を整備している。

組織体制の整備として、大学教育基盤センター内の能力開発部、地域教育部、数理情報・遠隔教育部を統括的にコーディネートしてDRI教育を全学的に波及・展開させる役割を担う「創造教育推進部門」を設置し、2018年10月1日付けで創造教育推進部門長を任命し、専任教員1名を雇用した。さらに、学部等選出の委員・コーディネーター等から協力を得ている。

以下では、上記3点、すなわち(1)DRI能力を育成するための基盤的教育、(2)DRIイノベーター養成プログラム、(3)DRI能力を育成するためのFDプログラムについて説明しながら、全学共通教育におけるDRI教育の展開についてみていく。

なお、本稿で掲載している写真及び受講生が作成した感想については、いずれも受講生による使用の許諾が得られている。

2. DRI能力を育成するための基盤的教育

2-1. DRI能力を育成するための基盤的教育とは

DRI能力を育成するための基盤的教育の目的は、より多くの学生がDRI能力を身につけるといことである³⁾。全学共通科目の主題Bにおいて、DRI教育における入門の役割を担う「はじめて学ぶDRI」(2019年度以降)、課題探求の方法を学ぶ「課題探求ベーシック①～③」(2019年度以降)、そしてDRI教育のベースとなるロジカルコミュニケーションに関する「人を動かすロジカルコミュニケーション」(2020年度以降)という新たなDRI能力育成科目を開設した。以下では、DRI教育における入門の役割を担う「はじめて学ぶDRI」について説明する⁴⁾。

また、全学共通教育では、特に、DRI能力育成科目のD科目(デザイン思考能力の育成に関する科目)を全学波及させるために、全学共通科目の主題B「現代社会の諸課題」の実質化を進めてきた⁵⁾。どういうことか。D科目では課題発見、課題解決能力も育成されるため、主題Bの課題発見・解決型授業を充実させることで、D科目の全学波及を進めてきた。

2-2. 「はじめて学ぶDRI」の授業紹介

「はじめて学ぶDRI」の目的は、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができるようになることである⁶⁾。この授業は、全学共通教育におけるDRI教育の入門の役割を担うだけでなく、「DRIイノベーター養成プログラム」(後述)の必修科目にもなっている。受講者数は、2019年度は69名、2020年度は131名、2021年度は181名であった。2020年度以降は受講希望者が増加したため、1クォーターに加えて3クォーターにも「はじめて学ぶDRI」を開講している。

授業は、次のような流れで進んでいく。それは、1. グループで地域課題を確認し、その解決策を考え、2. D・R・Iそれぞれの専門家が、D・R・Iを地域活性化にどのようにいかせるかを説明し、3. グループで、最初に考えた地域課題の解決策をDRIの観点から捉え直し、新たな解決策を考える、という流れである。

表1では、授業で取り組んだ地域課題のうちいくつかを年度ごとに紹介し、表2では「はじめて学ぶDRI」を受講した学生の感想を年度ごとに紹介しよう⁷⁾。

表 1 授業で取り組んだ地域課題

2019年度	若者がやりたい仕事がない／待機児童／地域医療の問題点／高齢化による農業の衰退／人口減少によって衰退する伝統工芸品・伝統芸能／国の支援を受けられない準過疎地域の活性／離島の人口減少／ダム地域の環境整備・自然保全・地域活性化・アーティスト育成／香川県のインバウンドへの対応／香川県の観光客を増加させよう／地方の観光地の活性化
2020年度	商店街における商業施設の衰退／地域の魅力の認知度の低さ／雇用の減少と地域外への若者の流出／少子化や晩婚化による出生率の低下／香川県での男性の育児／不登校の児童生徒の増加／地域の医療格差／農業人口の減少・農業の衰退／伝統工芸をはじめとした日本のものづくりの衰退／空き家の増加／地域の災害対策とその問題点／コロナ禍において稼ぐ地域をつくる
2021年度	地域の魅力発信／中山間地域の地方創生／香川県における若者流出を防ぐ／人口減少による雇用先・労働力の不足／核家族の負担軽減／地域医療と高齢化／農業人口の減少と耕作放棄地の増加／空き家の増加／岡山県におけるシャッター街、空き家、空き店舗の改善／交通事故抑制



図 1 「はじめて学ぶ DRI」の授業風景

表 2 「はじめて学ぶ DRI」を受講した学生の感想

2019年度	<ul style="list-style-type: none"> ● DRI について学ぶ前と学んだ後ではプランが大きく違って、自分の成長を感じることができました。(教育学部 1 年生) ● DRI はこれからの地域社会の問題を解決するのに必要不可欠だと感じました。これから自分がそれらの問題を解決するにあたり、DRI を使っていきたいです。(法学部 2 年生) ● これからの人生で DRI の観点から物事をみることができるようになったと思います。また、これからの時代、DRI の観点から考えるのは、とても重要なことであると実感しました。(医学部 1 年生)
2020年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 本講義によって、問題解決能力が向上したように感じています。受講前は、地域社会の抱えている問題という大きな問題に対して、自分がすることは何であろうかという視点で考えていました。しかし、受講後は、本当に効果が見込まれると思われる策を何点か考え、その中で、自分ができていることを考えるというように変わっていきました。(法学部 1 年生) ● 講義を通して地域活性化についての考えを深めることができました。具体的な地域課題の解決策を講義前と後に考えることで、より DRI という視点を理解するとともに、DRI から物事を捉えることの重要性を感じることができました。これから様々な経験を通してもっと DRI 能力を身につけていきたいと考えています。(経済学部 1 年生) ● DRI は、現在でも多くの場面で地域問題を解決するために活用されていて、これから先もっと増えていくと思われます。また、DRI は、地域活性化以外にも、多くの場面で有効になるものだと思います。大学卒業後、どのような道に進んだとしても、この 3 つをよく理解し、活用していけるようになれば、自分の大きな力になると思います。(農学部 1 年生)
2021年度	<ul style="list-style-type: none"> ● D・R・I それぞれの観点からアプローチして課題を設定し解決策を考えることで、物事に対するさまざまな視点を獲得することができたと思います。またグループ発表では他のグループの意見や考えを聞いて、自分たちにはなかったアプローチの仕方をしており新たな発見がたくさんありました。この授業で学んだことを他の授業や日常生活のなかで活かしていきたいです。(法学部 1 年生) ● DRI の視点をを用いて課題解決に取り組んでみると、DRI の視点が無かった時とは全く新しい角度からも課題について見ることができ、より良い発表をすることにつながったと思う。この DRI の考え方は、これから社会人になっていくなかで応用できると思う。この授業では、いろいろな考え方をを持った人が集まったグループ内でうまくコミュニケーションを取りながら、課題解決に向けて一緒に協力することも学ぶことができた。(農学部 1 年生)

2021年度	● DRIについて学ぶ中で、日常における小さな問題や課題にも応用して用いることができると感じた。「誰がどんなふうに困っていて、どうなることを望んでいるのか」を明確にした上で解決策を多く出し、各リスクを考え、情報を得て、実行してみて、また考える。DRIには一時的なゴールはあっても、終わりはないものであると感じた。今後は、社会的な問題を解決するために、自分ができる小さな活動は何があるのかを考え、行動できるようになりたいと思う。(医学部1年生)
--------	---

2-3. 主題Bの実質化とDRI教育

上述したように、DRI能力育成科目のD科目では課題発見、課題解決能力も育成されており、全学共通科目として開講されている主題Bの課題発見・解決型授業（特に、学生主導の授業）を充実させることで、D科目の全学波及が進んでいる。

主題Bは、タイプI～IVに分かれている。タイプIは学生主導の課題発見+解決型授業、タイプIIは学生主導の課題解決型授業、タイプIIIは学生主導の課題発見型、そしてタイプIVは教員主導の課題理解型である。表3は、主題Bタイプ別授業数の変化である。なお、タイプI～IVに該当しない科目は、2019年度が21科目、2020年度が19科目、2021年度が16科目と減少しており、主題Bの実質化が進んでいる。

表3 主題Bタイプ別授業数

	タイプI	タイプII	タイプIII	タイプIV
2019年度	14	1	7	38
2020年度	21	6	11	25
2021年度	22	5	15	23

このように新規科目の開講や主題Bの実質化等によって、全学共通教育ではDRI能力を育成するための基盤的教育を進めている。

3. DRIイノベーター養成プログラム

3-1. DRIイノベーター養成プログラムとは

2020年度より本格実施している「DRIイノベーター養成プログラム」は、DRIについてより深く学びたい学生のための特別教育プログラムである⁸⁾。本学では、DRIイノベーターを「DRIを通して、あらゆる人間が安心して生活できるイノベーションを創造する人材」と定義している。ちなみに、本プログラムの参加者数は、2020年度が69名、2021年度が90名である。2021年10月時点での学部ごとの参加登録者数は表4の通りで全学部から参加登録者がおり、本プログラムが全学展開していることが分かる。

表4 DRI イノベーター養成プログラム参加登録者数 (2021年10月時点)

学部	1年生	2年生	3年生	4年生	学部計
教育学部	12	15	0	1	28
法学部	12	15	0	1	28
経済学部	16	27	3	1	47
医学部	10	3	1	0	14
創造工学部	18	4	1	0	23
工学部	0	0	0	1	1
農学部	11	6	0	1	18
総計	79	70	5	5	159

本プログラムは、Dコース、Rコース、Iコースの3コース制となっており、履修した学生の希望に従い、D・R・Iの何を中心に学ぶか、選択できる仕組みになっている。さらに、本プログラムは、図2にあるように、全学共通科目と学部開設科目から構成されており、入門的な役割を担う「はじめて学ぶDRI」と修了演習にあたる「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」が必修科目となっている。各コースの特徴は、以下のとおりである⁹⁾。

表5 DRI イノベーター養成プログラムにおける各コースの特徴¹⁰⁾

【Dコースの特徴】 デザイン思考能力を育成する。具体的には、ワークショップやグループワーク等を用いながら、教員主導ではなく学生主導で行う授業を実施することで、学生が自分で考えそれを表現したり、他者に共感したり、アイデアや考えを実証したりする能力を育成する。
【Rコースの特徴】 リスクマネジメント能力を育成する。具体的には、防災、危機管理、セキュリティ、テロ、地球温暖化、渇水、疫病等のリスクの他に、様々な分野におけるリスク（法と社会のリスク、経済のリスクなど）に関する授業を実施することで、リスクとそれに対するマネジメント能力を育成する。
【Iコースの特徴】 数理・情報基礎力を育成する。具体的には、統計学、情報科学、ビッグデータ、AI、ICT、IoT等と関連のある内容を含む授業を実施することで、基礎的な数理・情報に関する能力を育成する。

	Dコース	Rコース	Iコース
全学共通科目	必修 DRIイノベーター養成プログラム課題研究（高度教養教育科目・修了演習）		
学部開設科目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域とアート（創造工学部） ■ インタラクションデザイン（創造工学部） ■ デザインの潮流（創造工学部） ■ まちづくり論（経済学部） など 	<ul style="list-style-type: none"> ■ リスクマネジメント（創造工学部） ■ レジリエンス科学（創造工学部） ■ レジリエンスデザイン（創造工学部） ■ リスクと保険（経済学部） など 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 微分・積分（造形）（創造工学部） ■ プログラミング（造形）（創造工学部） ■ 確率・統計（造形）（創造工学部） ■ 統計学入門（経済学部） など
全学共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人を動かすロジカルコミュニケーション ■ 課題探求ベーシック①～③ ■ 主題B科目内のプログラム対象科目 ■ 主題C－実践型科目 など 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人を動かすロジカルコミュニケーション ■ 防災リテラシー養成講座（災害を知る）A ■ 防災リテラシー養成講座（災害を知る）B ■ 防災コンピテンシー養成講座（災害に備える） など 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人を動かすロジカルコミュニケーション ■ 知プロ科目 高度情報化社会の歩き方 ■ 知プロ科目 コンピュータと教育 その1、その2 ■ 情報科学 など
	必修 はじめて学ぶDRI（主題B科目）		

図2 DRI イノベーター養成プログラムの構成

3-2. 「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」の授業紹介

本プログラムにおける必修科目のうち、「はじめて学ぶDRI」は上記のDRI能力を育成するための基盤的教育で述べたため、ここではもう一つの必修科目「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」について説明する¹¹⁾。

「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」の目的は、「DRIに関連する課題を設定し、その課題を探求もしくは解決することができる。さらに課題を探求もしくは解決することで、地域社会にイノベーションを創出するためのヒントをみつけることができる」ということである。

「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」は本プログラムの修了演習にあたるため、本授業を履修する学期に、DRI イノベーター養成プログラム対象科目を10単位以上取得できる見込みのある学生のみ履修可能としている。そのため、2020年度は本プログラムが初年度ということもあり本授業は開講されなかったが、2021年度より開講されている。2021年度は、夏期集中の5日間（9月21,22,27,28,30日）で開講された。

2021年度のテーマは、「観光客の視点から四国水族館を活用した宇多津町の地域活性化を考える」であった。3日目（27日）には、宇多津町役場やその周辺の「古街エリア」、四国水族館でフィールドワークを行った。5日目（30日）には、上記のテーマについて、本プログラムに関わっている教職員も参加し発表会が行われた。さらに、発表会の様子を録画した動画をフィールドワーク先の方々に視聴していただき、発表に対する貴重なコメントをいただいた。

3-3. プログラム関連イベント

本プログラムは、授業にくわえて、以下のようなイベントを開催している¹²⁾。本プログラムは、履修登録に向けてプログラム対象科目をどのように履修していくかを、プログラム登録者がプログラム主担当教員に相談をすることができる履修相談の機会や、プログラム登録者同士とプログラム主担当教員の顔合わせの機会等を設けている。

表6 DRI イノベーター養成プログラム関連イベント

2020 年度	<p>【4月】 新入生履修相談 新入生履修相談会会場（OLIVE SQUARE・多目的ホール）において、対面で新入生がプログラム主担当教員に直接履修相談する機会を設けた。</p> <p>【8月】 キックオフミーティング プログラム登録者とプログラム主担当教員の初顔合わせを兼ねたキックオフミーティングを開催した。</p> <p>【9月】 履修相談 後期の履修登録に向けて遠隔で、プログラム登録者がプログラム主担当教員に履修相談をすることができる機会を設けた。</p> <p>【3月】 講演上映会と履修相談 デザイン思考を用いて地域活性化に関わる活動を実践されている名塚ちひろさん（ゲストハウスコケココ代表／一般社団法人ドット道東理事）の講演を視聴し、遠隔でプログラム登録者とプログラム主担当教員で意見交換をした。また、2021年度の履修登録に向けて、遠隔でプログラム登録者がプログラム主担当教員に履修相談をすることができる機会を設けた。</p>
------------	--

2021 年度	<p>【4月】 新入生履修相談 新入生履修相談会会場（OLIVE SQUARE・多目的ホール）において、対面で新入生がプログラムを担当教員に直接履修相談する機会を設けた。</p> <p>【9月】 履修相談 後期の履修登録に向けて、プログラム登録者がプログラムを担当教員に履修相談をすることができる機会を設けた。</p>
------------	---

4. DRI 能力を育成するための FD プログラム

DRI 能力を育成するための基盤的教育と DRI イノベーター養成プログラムの授業を行うためには、全学の教職員から DRI 教育に対する理解と協力を得なければならない。そこで DRI 教育やアクティブラーニングに関する FD を開催し、教員・職員・学生が一丸となって DRI 能力の育成に取り組む環境を整備している¹³⁾。

以下では、2017 年度から 2021 年度において、DRI 能力を育成するためにどのような FD プログラムが実施されてきたかをみてみよう。なお、2018 年度から DRI 教育を開始するために、2017 年度より、特に主題 B と関連するデザイン思考やアクティブラーニングに関する FD が実施されていたため、それらも含めてみていく。

表 7 DRI 能力を育成するためにどのような FD プログラム

2017 年度	<p>【9月1日】 第1回 本学におけるデザイン思考教育に関する FD デザイン思考とはどのようなものなのか、また全学共通教育や各学部の専門教育とどのような関わりがあるのかなどについて説明がなされた。</p> <p>【9月14～15日】 よりよい授業のための FD ワークショップ 新任教員が主対象の研修プログラムであり、DRI 教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講義と受講者によるアクティブラーニングの実践が行われた。</p> <p>【9月21日】 全学 FD 「問題解決のデザイン：デザイン思考能力を育成するアクティブラーニングのススメ」 デザイン思考教育の先駆けである i.school（東京大学で始まったイノベーション教育プログラム）から講師をお招きし、全学 FD が開催された。</p> <p>【9月25～27日】 FD スキルアップ講座 DRI 教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講座が複数開講された。</p> <p>【10月13日】 第2回 本学におけるデザイン思考教育に関する FD チームづくりの方法論に関する FD が開催された。</p> <p>【11月17日】 第3回 本学におけるデザイン思考教育に関する FD クルマのデザインの歴史とマツダでの事例紹介が行われた。</p> <p>【12月18日】 第4回 本学におけるデザイン思考教育に関する FD デザイン思考にとって重要なロジカル思考演習の概要について説明がなされ、それらに関するミニセッションが開催された。</p> <p>【2月23日】 第5回 本学におけるデザイン思考教育に関する FD SONY での事例の紹介が行われた。</p>
2018 年度	<p>【9月13～14日】 よりよい授業のための FD ワークショップ 新任教員が主対象の研修プログラムであり、DRI 教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講義と受講者によるアクティブラーニングの実践が行われた。</p> <p>【9月25～27日】 FD スキルアップ講座 DRI 教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講座が複数開講された。</p> <p>【12月4日】 全学共通教育の平成 31 年度実施に向けた研修会 DRI 教育に対する理解と協力を得るために「DRI 教育の全学展開」というテーマで開催された。</p> <p>【1月17日】 徳島大学生物資源産業学部でのアクティブラーニングの取り組み DRI 教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニング、とくに農学系学部におけるアクティブラーニングに造詣の深い講師をお招きし、講演が行われた。</p>

	<p>【3月13日、20日】数理・データサイエンス教育に関するFD I（インフォマティクス）に関連するこのFDは、データサイエンスの基礎教育における全学波及を促進するために開催された。</p>
2019年度	<p>【7月～10月】各学部でのDRI教育に関するFD DRI教育に関する動画の視聴とDRI教育に関する質疑応答が行われた。</p> <p>【9月12～13日】よりよい授業のためのFDワークショップ 新任教員が主対象の研修プログラムであり、DRI教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講義と受講者によるアクティブラーニングの実践が行われた。</p> <p>【9月25～27日】FDスキルアップ講座 DRI教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講座が複数開講された。</p> <p>【10月9日】DPに基づく評価指標の開発と実施—山形大学の質保証への取組— DRI教育における質保証のあり方を考えるため、山形大学の先駆的な取組を紹介する講演が行われた。</p> <p>【12月3日】全学共通教育の令和2年度実施に向けた研修会 第1部では、新ネクストプログラム「DRIイノベーター養成プログラム」と、DRI能力育成の基盤的教育として新たに開設されようとしているDRI能力育成科目等について説明がなされた。第2部では、DRI教育とも密接に係わるアクティブラーニングについて取り上げ、その実践例を踏まえて授業デザインや教授法についての説明と質疑応答が行われた。</p>
2020年度	<p>【6月26日】全学FD「ZoomとMoodleを組み合わせたアクティブラーニング型授業」 DRI教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングを遠隔で実施するための講座が開講された。</p> <p>【9月14～15日】よりよい授業のためのFDワークショップ 新任教員が主対象の研修プログラムであり、DRI教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講義と受講者によるアクティブラーニングの実践が行われた。</p> <p>【9月25～27日】FDスキルアップ講座 DRI教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講座が複数開講された。</p> <p>【12月18日】全学FD「ちょっとだけ「斜に構えた」地域の魅力発信」 デザイン思考を用いて地域活性化に関わる活動を実践している講師をお招きし、講演が行われた。</p> <p>【2月8日】全学FD「平成30年7月豪雨被災地の復興とコミュニティ防災」 地域社会における防災・減災に関わるリスクマネジメントの実践や教育をしている講師をお招きし、講演が行われた。</p> <p>【3月2日】SPOD講師派遣プログラム「アクティブラーニング実践（だれでもできる！グループワークのためのファシリテーション）」 DRI教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講座が開講された。</p>
2021年度	<p>【9月7～8日】よりよい授業のためのFDワークショップ 新任教員が主対象の研修プログラムであり、DRI教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講義と受講者によるアクティブラーニングの実践が行われた。</p> <p>【9月16～17日】FDスキルアップ講座 DRI教育の有効な手法のひとつであるアクティブラーニングに関する講座が複数開講された。</p>

5. おわりに

大学教育基盤センターにおけるDRI教育の取り組み、すなわち、(1) DRI能力を育成するための基盤的教育、(2) DRIイノベーター養成プログラム、(3) DRI能力を育成するためのFDプログラムという三点について、説明してきた。以下では、上記三点についての到達点と課題についてみていく。

(1) DRI能力を育成するための基盤的教育について、主題Bで新たに開講した科目、特に「はじめて学ぶDRI」は、毎年受講生が増加しており、追加開講も行われている。また、主題Bは学生主導の授業（タイプⅠ～Ⅲ）が毎年増加している。ただし、タイプⅣの教員主導型の授業を減らし、タイプⅠ～Ⅲに移行できるようにする必要があるだろう。この点

については、学生主導の課題発見や課題解決を行うための方法に関する主題 B 授業事例動画を作成しているため、今年度のシラバス作成依頼を行う際、担当者に動画を視聴してもらおう予定である。

(2) DRI イノベーター養成プログラムについて、参加登録者数は毎年増加しており、2021 年 10 月時点で 159 名が参加登録をしている。その内訳をみると、すべての学部学生が本プログラムに参加登録をしており、DRI 教育が順調に全学展開していることがわかる（教育学部 28 名、法学部 28 名、経済学部 47 名、医学部 14 名、創造工学部（工学部含む）24 名、農学部 18 名）。ただし、D・R・I の 3 コース制を設定しているが、自コース科目以外の他コース科目も修得しなければならないという修了要件があるため、修了要件そして修了までたどり着くことができる学生が制限されているという現状がある。学生からも修了要件が複雑であるという意見もあるため、DRI イノベーター養成プログラム実施部会では、修了要件の検討を行っている。

(3) DRI 能力を育成するための FD プログラムについて、学内や学外の講師を招聘し、FD を行っている。しかし、DRI の 3 つすべてを活用した授業事例等の FD は行われていない。そのため、DRI イノベーター養成プログラムの修了演習にあたる「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」をもとにした FD 動画を作成している。当該授業は、D・R・I を専門とする教員が担当し、DRI の 3 つすべてを活用している。

全学共通教育では、引き続き、上記三点の取り組みを実施し、さらにこれまでの活動を振り返り、より充実した DRI 教育を展開させていく。

注

- 1) 全学共通教育における DRI 教育については、香川大学大学教育基盤センターのウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/about/>) (2021 年 11 月 12 日アクセス) を参照した。
- 2) 全学共通教育における DRI 教育の詳細については高橋 (2020) を、全学共通教育におけるデザイン思考の詳細については三宅 (2020) を、全学共通教育におけるリスクマネジメントの詳細については井面・西本 (2020) を、全学共通教育における数理・データサイエンスの詳細については林 (2020) を、創造教育推進部門の詳細については石井 (2019) を参照すること。
- 3) DRI 能力を育成するための基盤的教育については、香川大学大学教育基盤センターのウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/basic/>) (2021 年 11 月 12 日アクセス) を参照した。
- 4) 「課題探求ベーシック①～③」と「人を動かすロジカルコミュニケーション」については、香川大学大学教育基盤センターのウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/basic/>) (2021 年 11 月 12 日アクセス) で授業紹介を掲載しているため、そちらを参照すること。

- 5) 主題 B の実質化と DRI 教育については、香川大学大学教育基盤センターのウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/basic/>) (2021 年 11 月 12 日アクセス) を参照した。
- 6) 「はじめて学ぶ DRI」の説明については、香川大学大学教育基盤センターのウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/basic/>) (2021 年 11 月 12 日アクセス) をもとに作成している。
- 7) 本稿を執筆している現在は 3 クォーターの途中であるため、以下に示した 2021 年度の地域課題や学生の感想は 1 クォーターまでのものである。
- 8) DRI イノベーター養成プログラムについては、香川大学大学教育基盤センターのウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/programs/>) (2021 年 11 月 12 日アクセス) を参照した。なお、本プログラムの開設にいたる経緯については、西本 (2019、2020) を参照のこと。
- 9) 各コースの科目群と履修シミュレーションは、香川大学大学教育基盤センターのウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/programs/>) (2021 年 11 月 12 日アクセス) に掲載されている。
- 10) 2022 年 1 月 25 日に開催された「令和 4 年度第 6 回教務委員会」で、D 科目、R 科目、I 科目の全学における定義が承認された。しかし、本稿で説明している D・R・I コースの特徴は、香川大学大学教育基盤センターウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/programs/>) (2022 年 1 月 21 日アクセス) より引用しており、上記の全学における定義とは、現時点 (2022 年 1 月) では一致していない。今後は、全学における定義を本プログラムでも採用する予定である。
- 11) 「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」のより具体的な授業紹介については、小坂・石塚・高橋・藤澤 (2022) を参照のこと。また、「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」については、香川大学のウェブサイト (https://www2.st.kagawa-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?let_year=2021&let_cd=050106) (2021 年 11 月 12 日アクセス) に掲載されているシラバスを参照した。
- 12) 以下のプログラムは、香川大学大学教育基盤センターのウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/programs/>) (2021 年 11 月 12 日アクセス) の内容に、2021 年度のイベントを追加している。なお 2021 年度については、本稿を執筆して 3 クォーター現在までの情報である。
- 13) DRI 能力を育成するための FD プログラムの説明については、石井 (2020) と香川大学大学教育基盤センターのウェブサイト (<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/fd-program/>) をもとに作成した。なお 2021 年度については、本稿を執筆して 3 クォーター現在までの情報である。

参考文献

- 林敏浩（2020）「全学共通教育における数理・データサイエンス」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 17 号、21-26 頁。
- 井面仁志・西本佳代（2020）「全学共通教育におけるリスクマネジメント・レジリエンス」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 17 号、15-20 頁。
- 石井知彦（2019）「全学共通教育の平成 31 年度実施に向けた研修会（FD）報告第 1 部 2. 創造教育推進部門の設置とその役割」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 16 号、66-67 頁。
- 石井知彦（2020）「DRI 能力を育成するための FD プログラム」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 17 号、43-48 頁。
- 三宅岳史（2020）「全学共通教育におけるデザイン思考ー主題科目 B とデザイン思考教育の照合ー」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 17 号、5-13 頁。
- 西本佳代（2019）「DRI イノベーター養成プログラムについて」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 16 号、55-63 頁。
- 西本佳代（2020）「DRI イノベーター養成プログラム本格実施」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 17 号、27-34 頁。
- 高橋尚志（2020）「全学共通教育における DRI」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 17 号、1-3 頁。